

広告企画・制作 朝日新聞社広告部

紙上座談会 地域連携を進め、早期治療とリハビリ体制の確立を



医療法人 文佑会 原病院
理事長 原 文彦氏

1981年福岡大学医学部卒業。同大学病院第一内科(神経内科)を経て、91年より原病院(大野城市)副院長、99年より院長。01年から医療法人文佑会原病院となり理事長兼任。日本内科学会認定内科医、日本リハビリテーション医学会認定医など。

——脳卒中とはどのような病気ですか。
原 大きく分けて、虚血性(血流が不十分になり起こる疾患、脳血栓や脳塞栓など)と出血性(脳内出血や膜下出血など)があります。基礎疾患として高血圧、糖尿病、高脂血症、肥満などの生活習慣病がある方に起りやすく、脳血管の急激な病変により死に至ることや、身体の機能障害(運動障害や言語障害など)が残ることの多い病気です。

——脳卒中の方は増えているのですか。

風川 日本人の三大死因はがん、心臓病、脳卒中ですが、血圧のコントロールが進歩していることで脳出血が減少し、脳卒中全体の死亡率も下がっています。しかし、高齢化社会に伴い、患者は増加しております。

——脳卒中の方は増えているのですか。
原 大きく分けて、虚血性(血流が不十分になり起こる疾患、脳血栓や脳塞栓など)と出血性(脳内出血や膜下出血など)があります。基礎疾患として高血圧、糖尿病、高脂血症、肥満などの生活習慣病がある方に起りやすく、脳血管の急激な病変により死に至ることや、身体の機能障害(運動障害や言語障害など)が残ることの多い病気です。

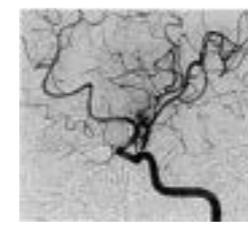
——脳卒中の方は増えているのですか。

風川 日本人の三大死因はがん、心臓病、脳卒中ですが、血圧のコントロールが進歩していることで脳出血が減少し、脳卒中全体の死亡率も下がっています。しかし、高齢化社会に伴い、患者は増加しております。

脳血管撮影



治療前の状態



コイルで治療後、瘤が造影されていない

資料:福岡大学筑紫病院脳神経外科

血 管 内 治 療

高齢化社会の中では、誰にとっても身近な病気・脳卒中。その治療においては死亡を防ぐだけでなく、後遺症を抑え早期の社会復帰をはかることが重要であり、低侵襲(体への影響が少ない)で回復の早い脳血管内治療は、その力ぎを握るものとして大いに注目されている。医療法人文佑会原病院理事長の原文彦氏、福岡大学筑紫病院脳神経外科講師の風川清氏、同病院医師の吳義憲氏に、最新の脳卒中治療や医療連携の重要性についてうかがった。

——命はとりとめても寝たきりになる方が多くなっています。
原 2004年1月現在で、日本で継続的に脳卒中の治療を受けている方は147万人。寝たきりの方の約4割が脳卒中であると言われます。

——生活習慣病を長期にわたり放置してきた方は、すでに脳卒中の原因となる動脈硬化が進行している可能性があります。

——その疾患の治療はもちろんながら、一度は脳の専門医を受診して精密検査を受けておくと良いと思います。

——開頭しないので侵襲が少ないと良いとあります。

——治療はどのように行うのですか。

風川 例えまくも膜下出血は、脳血管内治療がほとんどですが、従来は開頭してクリッピング(クリップで動脈瘤をつまむ)手術を行い、動脈瘤への血流を遮断する方法が一般的でした。しかし現在は、血管内治療も行われるようになり、非常に良い治療成績を上げています。

——具体的にはどのような治療法ですか。

——治療はどこに行うのですか。

風川 動脈瘤に対する血管内治療はヨーロッパでは半数以上、アメリカでも半数近くの患者さんに対しても優しくて優しい治療と言えます。

——血管内治療は増えているのですか。

風川 動脈瘤に対する血管内治療はヨーロッパでは半数以上、アメリカでも半数近くの患者さんに対しても優しくて優しい治療と言えます。

——血管内治療は増えているのですか。

風川 もちろん、どんな場合でも血管内治療が行えるわけではありませんし、開頭手術の方が安全と思われる場合もあります。

——具体的にはどのような治療法ですか。

風川 もちろん、どんな場合でも血管内治療が行えるわけではありませんし、開頭手術の方が安全と思われる場合もあります。

——寝たきりを予防するうえではリハビリも大切ですね。

——具体的にはどのような治療法ですか。

風川 まず急性期リハビリのポイントとなるのは、麻痺や言語障害の程度、残存機能の状態を見極め、以後のリハビリのためのプログラムを作成することです。回復期には、失った機能を取り戻すことを目的として本格的になりリハビリに取り組みます。そして一定期間の後にまた難しいようであれば介護施設などで維持期を診ることになります。

——寝たきりを予防するうえではリハビリも大切ですね。

——具体的にはどのような治療法ですか。

風川 脳卒中の治療には、そ

のため順調に終了すれば、正常な脳を損傷することもなく、すでにダメージを受けている脳に対しても優しい治療と言えます。

——血管内治療は増えているのですか。

風川 動脈瘤に対する血管内治療はヨーロッパでは半数以上、アメリカでも半数近くの患者さんに対しても優しくて優しい治療と言えます。

——血管内治療は増えているのですか。

風川 もちろん、どんな場合でも血管内治療が行えるわけではありませんし、開頭手術の方が安全と思われる場合もあります。

——具体的にはどのような治療法ですか。

風川 まず急性期リハビリの

——寝たきりを予防するうえではリハビリも大切ですね。

——具体的にはどのような治療法ですか。

風川 脳卒中の治療には、そ

——寝たきりを予防するうえではリハビリも大切ですね。

——具体的にはどのような治療法ですか。

風川 脳卒中の治療には、そ

の治療においては死亡を防ぐだけでなく、後遺症を抑え早期の社会復帰をはかることが重要であり、低侵襲(体への影響が少ない)で回復の早い脳血管内治療は、その力ぎを握るものとして大いに注目されている。医療法人文佑会原病院理事長の原文彦氏、福岡大学筑紫病院脳神経外科講師の風川清氏、同病院医師の吳義憲氏に、最新の脳卒中治療や医療連携の重要性についてうかがった。

——命はとりとめても寝たきりになる方が多くなっています。

——日本で継続的に脳卒中の治療を受けている方は147万人。寝たきりの方の約4割が脳卒中であると言われます。

——生活習慣病を長期にわたり放置してきた方は、すでに脳卒中の原因となる動脈硬化が進行している可能性があります。

——その疾患の治療はもうろんながら、一度は脳の専門医を受診して精密検査を受けておくと良いと思います。

——開頭しないので侵襲が少ないと良いとあります。

——治療はどのように行うのですか。

風川 例えまくも膜下出血は、脳血管内治療がほとんどですが、従来は開頭してクリッピング(クリップで動

脈瘤をつまむ)手術を行い、動脈瘤への血流を遮断する方法が一般的でした。しかし現在は、血管内治療も行われるようになり、非常に良い治療成績を上げています。

——具体的にはどのような治療法ですか。

——治療はどこに行うのですか。

風川 動脈瘤に対する血管内治療はヨーロッパでは半数以上、アメリカでも半数近くの患者さんに対しても優しくて優しい治療と言えます。

——血管内治療は増えているのですか。

風川 もちろん、どんな場合でも血管内治療が行えるわけではありませんし、開頭手術の方が安全と思われる場合もあります。

——具体的にはどのような治療法ですか。

風川 まず急性期リハビリの

——寝たきりを予防するうえではリハビリも大切ですね。

——具体的にはどのような治療法ですか。

風川 脳卒中の治療には、そ

——寝たきりを予防するうえではリハビリも大切ですね。

——具体的にはどのような治療法ですか。

風川 脳卒中の治療には、そ

——寝たきりを予防するうえではリハビリも大切ですね。

——具体的にはどのような治療法ですか。

風川 脳卒中の治療には、そ

——寝たきりを予防するうえではリハビリも大切ですね。

——具体的にはどのような治療法ですか。

風川 脳卒中の治療には、そ



福岡大学筑紫病院 脳神経外科
講師 風川 清氏

1982年防衛医科大学校卒業。同大学附属病院、自衛隊中央病院、国立循環器病センター、福岡徳洲会病院などを経て、01年より現職。医学博士。日本脳神経外科学会認定専門医。日本脳神経血管内治療学会認定指導医。

地域の医療連携を進め、早期回復と社会復帰を支援

地域の医療連携を進め、早期回復と社会復帰を支援

地域の医療連携を進め、早期回復と社会復帰を支援

地域の医療連携を進め、早期回復と社会復帰を支援

地域の医療連携を進め、早期回復と社会復帰を支援

地域の医療連携を進め、早期回復と社会復帰を支援

地域の医療連携を進め、早期回復と社会復帰を支援

地域の医療連携を進め、早期回復と社会復帰を支援

地域の医療連携を進め、早期回復と社会復帰を支援

地域の医療連携を進め、早期回復と社会復帰を支援

かかる時には、無意識でその重さや硬さ、大きさを認知し、割り落とさずに持つことができます。しかし、こうした機能は運動療法だけでは回復させることができません。そのため最近では脳の認知過程(覚醒・注意・記憶・判断・言語)を活性化させ機能回復を試みることを目的とした、新しいリハビリの取り組みも始まっています。

——命はとりとめても寝たきりになる方が多くなっています。

——日本で継続的に脳卒中の治療を受けている方は147万人。寝たきりの方の約4割が脳卒中であると言われます。

——生活習慣病を長期にわたり放置してきた方は、すでに脳卒中の原因となる動脈硬化が進行している可能性があります。

——その疾患の治療はもうろくながら、一度は脳の専門医を受診して精密検査を受けておくと良いと思います。

——開頭しないので侵襲が少ないと良いとあります。

——治療はどのように行うのですか。

風川 例えまくも膜下出血は、脳